令和4年度　大田区立東蒲中学校　自己評価　報告書

令和5年3月1日

○　本校の概要

1　学校規模
（1）生徒数　394名（第1学年126名、第2学年134名、第3学年134名）
（2）学級数　12学級（SR教室拠点校）
（3）教員数　29名（男性16名、女性13名）

2　特色ある教育活動
「自他共に大切にし、学ぶ意欲を育てる東蒲中」
（1）豊かな人間性を育てる・・小中一貫で生活スタンダードに取り組み、規範意識を育成する。
（2）学ぶ意欲を育てる・・・・興味関心を高める指導の工夫をし、分かる授業実践をする。

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	今年度	昨年度	目標に対する成果指標	今年度 成果評価	今年度 これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 評価	人数	コメント
プラン1　未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上が回答した。 2：60%以上が回答した。 1：60%未満であった。	4	4	4：生徒アンケートにおいて、「先生は、勉強についての質問や疑問に丁寧に対応してくれる」、保護者アンケートにおいて、「授業は教え方が丁寧で、わかりやすい授業が多いようだ」の問いに対して、肯定的評価の割合が80%以上である。	3 4	生徒：「先生は、勉強についての質問や疑問に丁寧に対応してくれる」の肯定的評価は89%に対し、保護者：「授業は教え方が丁寧で、わかりやすい授業が多いようだ」の肯定的評価は、58%と低い。今年度は、学校公開を実施し、多くの保護者が参加し参観をしていただいた。その中では先生が一方的に話すのではなく、生徒もたくさん発言し参加していたなど肯定的な感想も多く見うけられた。今後も授業改善を進め、よりよい授業を模索していきたい。 生徒：「生徒会活動や委員会活動、係の仕事などに積極的に取り組んでいる」の肯定的意見は88%となり、異年齢集団で学校をよりよくするために活動する生徒が多いことが分かる。その活動の中で頑張っている生徒を認め褒める活動を行い、自尊感情を高めている。	A	3	・保護者の理解度を上げることが望まれる。 ・先生が一方的に話すのではなく生徒もたくさん発言をし、参加しているという肯定的な感想が多いのはとても良いことだと思います。そして、学校をよりよくするために活動する生徒が多いということは素晴らしいことですね。 ・保護者の考えが把握できていない可能性があり、このため不十分となっていないかが、気になります。 ・子どもからの話を聞くだけでの判断になりますが、もう少し実習・実験・実技的部分もこれからは機会が増えると良いなと思います。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4：全教員が行った。 3：80%以上の教員が行った。 2：60%以上の教員が行った。 1：60%未満であった。	3	4	3：生徒アンケートにおいて、「先生は、勉強についての質問や疑問に丁寧に対応してくれる」、保護者アンケートにおいて、「授業は教え方が丁寧で、わかりやすい授業が多いようだ」の問いに対して、肯定的評価の割合が70%以上である。			B	4	
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4：設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3：80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2：60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1：60%未満であった。	4	4						
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4：対象となる全学級（全教員）で行った。 3：80%以上で行った。 2：60%以上で行った。 1：60%未満であった。	3	4	2：生徒アンケートにおいて、「先生は、勉強についての質問や疑問に丁寧に対応してくれる」、保護者アンケートにおいて、「授業は教え方が丁寧で、わかりやすい授業が多いようだ」の問いに対して、肯定的評価の割合が60%以上である。			C	0	
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	3	4						
		話合いや教え合い活動など言語活動の充実に取り組んでいる。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上が回答した。 2：60%以上が回答した。 1：60%未満であった。	4	4	1：生徒アンケートにおいて、「先生は、勉強についての質問や疑問に丁寧に対応してくれる」、保護者アンケートにおいて、「授業は教え方が丁寧で、わかりやすい授業が多いようだ」の問いに対して、肯定的評価の割合が60%未満である。			D	0	
プラン2　学力の向上	児童・生徒一人一人の学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4：対象となる全学級（全教員）で行った。 3：80%以上で行った。 2：60%以上で行った。 1：60%未満であった。	3	4	4：生徒アンケートにおいて、「授業にしっかり取り組んでいる」「家庭で宿題、予習・復習をしっかりしている」「授業はわかりやすく丁寧である」の問いに対して、肯定的評価の割合が80%以上である。	4 4	生徒：「授業にしっかり取り組んでいる」の問いに対して、肯定的評価の割合が87%であった。生徒：「家庭で宿題、予習・復習をしっかりしている」の問いに対して、肯定的評価の割合が66%で、家庭学習に課題はある。 生徒：「授業はわかりやすく丁寧である」の問いに対する肯定的評価は、84%である。ICT機器の活用は各教師スムーズに活用し授業実践が行えた。しかし、オンライン授業の実施は全教科でないことから、さらに推進していく必要がある。また、確かな学力を身に付けさせるために小中一貫教育の観点から①家庭学習の習慣を確立②ICT活用の工夫・充実③資格・検定の推進を図っていく。	A	5	・家庭での生活時、予習・復習の数値が低めの原因や今後の対策についての検討が必要ですね。 ・家庭学習では宿題はやらないとまずいという気持ち、予習・復習は塾に通っているからいいやという気持ちになり、なかなかできないのでしょうか。 ・取組内容1について全学級(全教員)でなかったかが気になります。 ・補習や検定などが充実していて良いと思います。協力してくださるスクールサポートさんにも感謝いたします。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2～3回知らせた。 3：学期毎に知らせた。 2：年度間に1回は知らせた。 1：お知らせできなかった。	3	3	3：生徒アンケートにおいて、「授業にしっかり取り組んでいる」「家庭で宿題、予習・復習をしっかりしている」「授業はわかりやすく丁寧である」の問いに対して、肯定的評価の割合が70%以上である。			B	2	
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4：対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3：80%以上の教員が働きかけた。 2：60%以上の教員が働きかけた。 1：60%以下の教員が働きかけた。	4	4						
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上が回答した。 2：60%以上が回答した。 1：60%未満であった。	4	4	2：生徒アンケートにおいて、「授業にしっかり取り組んでいる」「家庭で宿題、予習・復習をしっかりしている」「授業はわかりやすく丁寧である」の問いに対して、肯定的評価の割合が60%以上である。			C	0	
		評価規準を明確化や評定資料の工夫などを通して、信頼性と妥当性のある評価・評定に取り組んでいる。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上が回答した。 2：60%以上が回答した。 1：60%未満であった。	4	4	1：生徒アンケートにおいて、「授業にしっかり取り組んでいる」「家庭で宿題、予習・復習をしっかりしている」「授業はわかりやすく丁寧である」の問いに対して、肯定的評価の割合が60%未満である。			D	0	
プラン3　豊かな心の育成	子ども一人一人の正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4：全教員が行った。 3：80%以上の教員が行った。 2：60%以上の教員が行った。 1：60%未満であった。	4	4	4：保護者アンケートにおいて、「学校の雰囲気は明るく、子どもたちも生き生きと活動している」「子どもは東蒲中の生活が楽しいと言っている」の問いに対して、肯定的評価の割合が85%以上である。	4 4	保護者：「学校の雰囲気は明るく、子どもたちも生き生きと活動している」の問いに対して、肯定的評価の割合が91%.である。保護者：「子どもは東蒲中の生活が楽しいと言っている」の問いに対して、肯定的評価の割合が80%である。今後も学校生活調査やWebハイパーQ-U、いじめ調査の結果を活用し、一人一人の課題に対応できるよう日ごろの声かけや観察、面談を実施したいと考える。	A	5	・従来より安定した学校生活が送れている様子がうかがえると思います。保護者の評価も高いことは何よりと考えます。 ・学校へ来校したときなど生徒はあいさつをしてくれますが、以前よりは減ったように思います。 ・対応は良いと思います。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4：学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3：学期に1回（年間3回）以上行った。 2：年度間に1回以上行った。 1：実施しなかった。	3	4	3：保護者アンケートにおいて、「学校の雰囲気は明るく、子どもたちも生き生きと活動している」「子どもは東蒲中の生活が楽しいと言っている」の問いに対して、肯定的評価の割合が75%以上である。			B	2	
		学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4：「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	4	4						
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4：「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	4	4	2：保護者アンケートにおいて、「学校の雰囲気は明るく、子どもたちも生き生きと活動している」「子どもは東蒲中の生活が楽しいと言っている」の問いに対して、肯定的評価の割合が65%以上である。			C	0	
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4：必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3：必要な事案に対しておおかた会議を実施した 2：必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1：必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	4	4						
		QUの活用に関する研修会をもとに、個人面談を実施する。	4：全教員（全学級）で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	4	4	1：保護者アンケートにおいて、「学校の雰囲気は明るく、子どもたちも生き生きと活動している」「子どもは東蒲中の生活が楽しいと言っている」の問いに対して、肯定的評価の割合が65%未満である。			D	0	
プラン4　体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	4	4	4：生徒アンケートにおいて、「部活動は楽しく充実している」、保護者アンケートにおいて、「学校は部活動の活性化を図り、生徒の健全育成に努めている」の問いに対して、肯定的評価の割合が83%以上である。	4 4	生徒：「部活動は楽しく充実している」の問いに対して、肯定的評価の割合が79%で放課後活動の充実が伺える。保護者：「学校は部活動の活性化を図り、生徒の健全育成に努めている」の問いに対して、肯定的評価の割合が69.7%であった。校庭改修やコロナで活動が限られた時間であったが、生徒自身の充実感がうかがえる。	A	6	・これからもスポーツに取り組む東蒲中の活気や盛り上がりを期待します。 ・校庭改修のため、部活動や体育、休み時間の校庭遊びができないのがとても残念です。特に3年生は受験生なので発散できないですね。 ・給食については保護者に聞いても不満をほとんど聞きません。いつもおありがとうございます。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	3	3	3：生徒アンケートにおいて、「部活動は楽しく充実している」、保護者アンケートにおいて、「学校は部活動の活性化を図り、生徒の健全育成に努めている」の問いに対して、肯定的評価の割合が73%以上である。			B	1	
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	4	4	2：生徒アンケートにおいて、「部活動は楽しく充実している」、保護者アンケートにおいて、「学校は部活動の活性化を図り、生徒の健全育成に努めている」の問いに対して、肯定的評価の割合が63%以上である。			C	0	
		部活動の活性化を図り、生徒の体力向上・健全育成に努める。	4：全教員（全学級）で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	4	4	1：生徒アンケートにおいて、「部活動は楽しく充実している」、保護者アンケートにおいて、「学校は部活動の活性化を図り、生徒の健全育成に努めている」の問いに対して、肯定的評価の割合が63%未満である。			D	0	
プラン5　魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	4	4	4：生徒アンケートにおいて、「教材や教え方を工夫している先生が多い」「学校の施設・設備は十分整っている」の問いに対して、肯定的評価の割合が80%以上である。	4 4	生徒：「教材や教え方を工夫している先生が多い」」の問いに対して、肯定的評価の割合が81%で、上記でも触れたが、ICT機器の活用がされ教師工夫を凝らした授業実践が肯定的評価につながっていると考える。「学校の施設・設備は十分整っている」の問いに対して、肯定的評価の割合が73.8%であった。もう一つのトイレ改修、校庭改修、が整うと評価は急激に高まると思われる。	A	4	・評価に同感です。 ・校庭改修がどのように良くなるのかとても楽しみです。 ・十分だと思いますが期待を込めて。もう少し教材の工夫などして授業に興味がもてると良いなと思います。（次男の小学校の授業がおもしろく興味深いので、どうしても比べてすみません）
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4：学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3：学期に1回（年間3回）以上行った。 2：年度間に1回以上行った。 1：実施しなかった。	4	3	3：生徒アンケートにおいて、「教材や教え方を工夫している先生が多い」「学校の施設・設備は十分整っている」の問いに対して、肯定的評価の割合が70%以上である。			B	2	
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	4	4	2：生徒アンケートにおいて、「教材や教え方を工夫している先生が多い」「学校の施設・設備は十分整っている」の問いに対して、肯定的評価の割合が60%以上である。			C	0	
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4：月1回以上行った。 3：学期に2～3回行った。 2：学期1回以上行った。 1：実施しなかった。	4	3						
		小中一貫した授業改善プランを作成し、日々の授業に生かし、小中一貫教育を推進する。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	4	3	1：生徒アンケートにおいて、「教材や教え方を工夫している先生が多い」「学校の施設・設備は十分整っている」の問いに対して、肯定的評価の割合が60%未満である。			D	0	
プラン6　学校・家庭・地域が一体となってともに進める教育	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4：月1回以上更新した。 3：学期に2～3回更新した。 2：学期1回以上更新した。 1：更新しなかった。	4	4	4：保護者アンケートにおいて、「学校の様子を詳しく保護者に伝えている」「学校は、地域の力を子どもたちの教育活動に生かしている」の問いに対して、肯定的評価の割合が80%以上である。	4 4	保護者：「学校の様子を詳しく保護者に伝えている」の問いに対して、肯定的評価の割合が84%で、毎週各学年だよりの発行で、生徒の活動報告や次週の予定などをこまめに家庭に発信したことが成果である。保護者：「学校は、地域の力を子どもたちの教育活動に生かしている」の問いに対して、肯定的評価の割合が53%となった。学校支援地域本部tohoの補習教室、各種検定の集金や見守り、花壇の整備、行事でのぼりの設置など、多くの活動を行っていただいているが保護者にうまく活動が伝わっておらず、評価を下げる形になった。今後は地域の力が大きく学校に注がれていることを保護者に伝えて今なければならない。その上で連携・協力を高めつつ家庭・地域と一体になって子供を育てていく考えである。	A	5	・従来どおりの地域との関係がなされていると考えます。学校の努力に対し評価しています。 ・学校サポートとして、活動内容やボランティアの募集のお手紙の配付がおろそかになっているため、保護者の方々への認知度が低いと反省をしています。来年度は手紙の作成を考えています。 ・きちんと情報を受け取って活用されている方からすると、お知らせなどきちんとしてもらえてとても良いと思います。（ただ子どもから受け取っていない、ホームページ見ない、メール見てなかった…は残念ながらよく聞きます。）
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4：毎回情報を提供した。 3：おおむね情報を提供した。 2：あまり情報を提供しなかった。 1：情報を提供しなかった。	4	4	3：保護者アンケートにおいて、「学校の様子を詳しく保護者に伝えている」「学校は、地域の力を子どもたちの教育活動に生かしている」の問いに対して、肯定的評価の割合が70%以上である。			B	2	
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4：学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った 2：年1回以上行った。 1：実施しなかった。	4	4	2：保護者アンケートにおいて、「学校の様子を詳しく保護者に伝えている」「学校は、地域の力を子どもたちの教育活動に生かしている」の問いに対して、肯定的評価の割合が60%以上である。			C	0	
		保護者の相談等にていねいに対応し、保護者からの理解と信頼を得ている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上が回答した。 2：60%以上が回答した。 1：60%未満であった。	4	4	1：保護者アンケートにおいて、「学校の様子を詳しく保護者に伝えている」「学校は、地域の力を子どもたちの教育活動に生かしている」の問いに対して、肯定的評価の割合が60%未満である。			D	0	